

ドメイン名の“Front Running”

ICANN報告会

2007年11月27日

丸山直昌

JPNIC

こんな経験ありますか？

- あるドメイン名が登録済みかどうか確認するために whois を使ったら、未登録だと確認できた(No match for “?????.com”).
- 数日後、そのドメイン名の登録をレジストラに依頼したところ、そのドメイン名は登録済みで取れない、との返事が来た。

このような事例に対する疑念

- whoisで調べたことがどこかに情報として流れて、第三者に先取りされたのではないか？
- そのような情報漏洩と先取りは反則行為ではないのか？

SSAC Advisory on Domain Name Front Running

- このような事例に関して2007年10月にSecurity and Stability Advisory Committee(SSAC)からレポートが出た
(<http://www.icann.org/committees/security/sac022.pdf>).
- このような事例は証券取引の世界で“Front Running”と呼ばれている行為に似ている。

SSAC Advisory概要

- (ドメイン名の)Front Runningの仕組みの可能性を列挙。
- DNS(Domain Name Server)の運用者はDNSのアクセスログを利用できるが、現状ではこれの外部への提供は制限されていない。
- ICANNのレジストリ契約、レジストラ契約では、whoisに対するアクセス情報や未登録確認の問い合わせの情報を外部に提供することを禁止していない。

SSAC Advisory概要(続)

- ドメイン名が未登録かどうか確認する手続 (availability check)から情報が漏洩して先取りされる可能性は、現状では残念ながらある。
- Front Runningに対する疑念は、消費者のドメイン名事業に対する信頼感を失わせる。
- Front Runningが実際に起こっているかどうか確たる証拠はないが、苦情は既にある。
- 苦情を受け付ける統一的な仕組みが存在しない。

SSAC Advisory 概要(続)

- 現状ではFront Runningに関する規範は無い(証券取引のFront Runningは違法である)。
- DNSやwhois、ドメイン名未登録確認からの情報を流用しての先取りは不正・不公正であるとも考えられる(断定はしていない)。

SSAC Advisory 結論

- Front Runningの事例報告を求める
(SSAC - DNFR@ICANN.ORG)
- Front Runningを制限するためのポリシーの検討
を呼びかける。

SSACへの事例報告要領

- メールアドレス:

SSAC - DNFR@ICANN.ORG

- 使用したドメイン名未登録確認の方法
- 使っているISP
- 未登録確認を提供する事業者
- 未登録確認を行った日時
- 未登録確認に対する返答のコピー
- 一度失効したドメインか否か
- 登録済みであるとの通知のコピー
- 先取り者と思われる人との通信
- レジストラ或は未登録確認事業者との通信
- 未登録確認事業者と先取り者との関係を示す情報